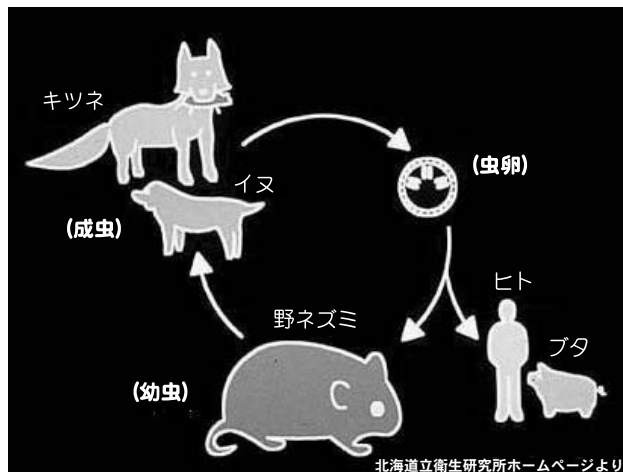




放っておくと危険な病気
エキノコックス症
 主にキツネを介して起こる病気「エキノコックス」
 私たちの住んでいる北海道には、道外ではあまり見られない病気があります

図：エキノコックスの生活環



エキノコックス症の感染経路

エキノコックスの成虫はキツネの腸に寄生して卵を産み、その卵が糞と一緒に排泄される。この卵を木の实などと一緒にネズミが食べると、ネズミの体の中で卵がかえって幼虫となり寄生する。この幼虫が寄生したネズミをキツネが食べると、キツネの腸に寄生する。

北海道立衛生研究所ホームページより

エキノコックス症の予防のために注意すること

- ▼ 外から帰ってきたら、よく手洗いをしましょう。
- ▼ キツネを餌付けしたり、呼び寄せたりして手を触れることのないようにしましょう。
- ▼ 野山の果実や野菜などを口にする場合、流水でよく洗い、十分に熱を加えて食べるようにしましょう。

- ▼ 沢水・わき水などの生水を飲まないようにしましょう。
- ▼ キツネにえさを与えないこと、また、キツネのえさになる残飯などはきちんと処理し、放置しないようにしましょう。
- ▼ 犬が感染しないために、飼い方にも注意しましょう。

- ・ 放し飼いはしない（犬がネズミを食べる可能性があります）
- ・ 散歩の時は必ずリードを使用
- ・ 犬に触れた後は、必ず手を洗う

以前は山で見かけることがほとんどだったキツネも、ここ数年、えさ不足などの影響で、住宅街でもよく見るようになりました。放っておくと危険な病気「エキノコックス症」について正しく知り、予防方法を身につけることが大切です。

エキノコックス症とは、エキノコックスという名の寄生虫の幼虫が人の主に肝臓に寄生して起こる病気です。通常、キツネ(成虫)とネズミ(幼虫)の間で、感染を繰り返します。

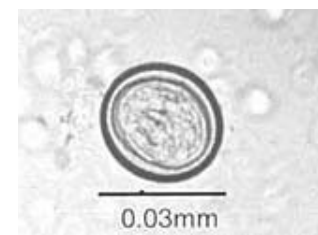
しかし、最近ではエキノコックスが寄生した野ネズミを食べた犬にも感染することがわかってきました。そのほかに、幼虫は豚や馬、成虫は猫にも寄生しますが、猫はキツネや犬と違い、感染しても成虫が育ちにくいといわれています。(次頁図参照)

人にはどうやって感染するの？

人へは、エキノコックスが寄生したキツネ(犬や猫)の糞の中の卵が、口に入ることによって感染します。感染したキツネやその糞に直接さわることには危険です。また、キツネの糞で汚染された野菜を生で食べたり、沢水・わき水を飲んだりした場合も考えられます。野ネズミから人、人から人に感染することはありません。

エキノコックス症の症状

人にエキノコックスが感染しても、すぐには自覚症状が現れず、数年から10数年の潜伏期を経て、腹部の不快感や腫満感などの症状がでます。放っておくと肝機能障害がすすみ、命にかかわる場合もあります。



▲エキノコックスの虫卵
 キツネの糞に混じって出た卵は直径0.03mm。これが人間の口に入ってエキノコックスを引き起こします。
 ※北海道立衛生研究所ホームページより



外出後は手を洗う習慣を。



かわいいと思ってもえさを与えてはいけません。(写真提供：岩澤光子さん)



最近では道路脇でもよくキツネを見かけます。



☎エキノコックス症に関するお問い合わせ
 福祉課保健係(すこやか健康センター内)
 ☎ 0164-62-6020

**早期発見のためには
 検診を受けることが基本**

羽幌町では毎年、小学3年生以上を対象にエキノコックス症検診(無料)を行っています。エキノコックス症は進行が遅いため、毎年検診を受ける必要はありません。5年に1度は定期的に検診を受けましょう。

今年度は平成22年1月の冬季総合健診と合わせて実施します。近くなりましたら、チラシで周知しますので、ぜひ受診してください。